

約6割が災害への備えをしていない!?

「防災」をテーマにフォーラムを開催

島根県立大学 家迫秀和さん



家迫秀和さん(21)は、温泉津町出身で、浜田市にある島根県立大学3年生です。大学では総合政策学部在籍し、地域の課題解決に向けた取り組みを学んでいます。大学のカリキュラムの一環で、島根の地域課題を発見し研究する「しまね地域マイスター」課程の発表の場も兼ねて、このたび自ら主催で「大田市防災フォーラム」を開催しました。そんな家迫さんと防災フォーラムの様子をご紹介します。

「防災」に興味を持つ

平成30年4月9日に大田市東部を震源とする震度5強の地震があり、市民の暮らしを直撃しました。震災後、「防災」についての意識が高まる中、家迫さんが防災をテーマに研究したきっかけは、高校時代に行った東日本大震災のボランティアです。ボランティアを通じて、実際に被災された方々の生の声を聞き、また被災箇所を見ることができ、考えさせられたことがきっかけです。

「災害はいつでも起きるかわからない。東北は地震が多いけど、今回の規模は想定外。普段から備えておかないといけない。」

生まれ育った大田市は、災害が少ない地域だと思っていました。が、被災された方からのお話を聞き、大田市でも想定外の災害が起きるかもしれない——そんな考えから、家迫さんの研究はスタートしました。



家迫秀和さん

防災フォーラムで研究結果を発表

1月27日(日)、「大田市防災フォーラム」を開催しました。このフォーラムでは、昨年8月に大田市民(男女各250人)を対象に「大田市災害意識アンケート調査」を行い、集計・分析した結果を発表しました。

家迫さんのほかにも、市役所危機管理課から「大田市の防災の取り組み紹介」や、島根県立大学災害研究会「D S A C」から「大学生による地域防災活動の紹介」もあり、参加者にとって、「防災」について、改めて考えるきっかけとなりました。

ボランティアを通じて

家迫さんは東日本大震災以降も積極的にボランティアに参加しています。

大田市東部地震の際にも、ブロック塀の解体や土のう作りなどをを行い、また西日本豪雨で被災した岡山県真備町でもボランティア活動を行ったそうです。

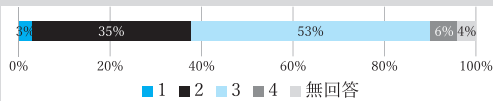
自身もボランティアに参加することで、価値観が変わった経験のある家迫さんは、「たくさんの方にボランティアに参加してほしい。目で見えるものや被災された方から聞く話。何かを感じたり、価値観が変わったり、自分にとっても良い経験になると思います」と話してくれました。

「大田市防災意識調査」調査結果(抜粋)

①防災意識について

日常生活において、災害への備えは、どのくらい重要だと思いますか。(1つだけ〇)

1. 優先して取り組む重要な事項であり、十分に取り組んでいる。
2. 災害に備えることは重要だと思うが、日常生活の中でできる範囲で取り組んでいる。
3. 災害に備えることは重要だと思うが、災害への備えはほとんど取り組んでいない。
4. 自分の周りでは災害の危険性がないと考えているため、特に取り組んでいない。



【コメント】

3または4と回答されている方が約6割。もしもの災害に備えることが必要だと考えます。また、防災に取り組むきっかけが求められると考えます。